

実習日：平成 29 年度第Ⅱ期 11 月 1 日

実習先：大分市医師会立アルメイダ病院

大学名・学年：崇城大学 5 年

氏名：岡嶋 裕太

今回、大分ゆふみ病院での実習では朝のカンファレンス、院内見学、麻薬についての講義、注射調剤、医療職カンファレンス、院長先生の講義（ホスピス総論）、ラウンジでの患者とのコミュニケーション、服薬指導の見学・ロールプレイ等をさせていただきました。

朝のカンファレンスでは患者の夜間の様子や疼痛コントロールなどを中心に細かい所まで申し送りをしており、そこで普段聞きなれない専門用語について知ることができました。院内見学の印象は全室個室で家族が 24 時間付添えるスペースがあり、庭には緑の木々が多く植えられているなど、とにかく患者がリラックスできる空間にしているような印象でした。麻薬の取り扱いについては実際に麻薬譲受証を書く練習をさせてもらったことでロット番号や数量の確認など大切な所を学ぶことができました。また、注射調剤をする際に輸液の種類や容量の少なさに疑問を持ち聞いてみたところ、ターミナル患者にとっては輸液を行うこと自体が苦痛となることが多く、浮腫などの副作用を防ぐために輸液量もなるべく少なくするということを知りました。加えて食事を美味しく食べてもらうために薬の数も極力少なくするようにするなど、薬剤師の職能を発揮すべき所も学びました。また、院長先生の講義では最期の家族との時間を大切にしてもらうために心電図モニターを設置しないことや、病院で娘の結婚式を見て元気を出してもらえるようにサポートをするなど、ホスピス病院ならではの取り組みを知ることができました。

全体を通して、大分ゆふみ病院では「ホスピス＝死を待つ所」ではなく「患者とその家族が生き抜く場」として捉えており、そのために患者だけでなくその家族の精神的なケアも行っているという印象でした。

今回の実習を終えて将来薬剤師になる上で薬で痛みをとることだけに終わらず、患者さんが抱える不安や望みなどに耳を傾けて聞く力をもった薬剤師になりたいと思いました。